

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成23年度 第1回所沢市学び改善プロジェクト委員会
開 催 日 時	平成23年7月11日(月) 午後3時～午後4時30分
開 催 場 所	所沢市立教育センター セミナーホール
出 席 者 の 氏 名	〔委員〕赤堀侃司白鷗大学教育学部長・教授、武弓清貴小学校長 会副会長(吉田正所沢市立清進小学校長の代理)、中正美中学校 長会長、小沢貞泰小学校PTA代表、恩田いずみ成人保健課保健 師、岸健次教育総務課主幹兼教育企画室長、佐藤尊之社会教育課 主査、小俣芳彦スポーツ振興課主査、山口勝彦学校教育課教育指 導担当主幹兼健やか輝き支援室長、栗原洋子保健給食課主査兼指 導主事、(田中ゆり子保健給食課副主幹の代理)、齋藤敏男所沢 市立教育センター所長、竹内和代こども未来部こども相談センタ ー主査、宮下広子こども会育成会前会長、新妻紀子保護司
欠 席 者 の 氏 名	鈴木 康雄 中学校PTA代表
議 題	1 協 議 (1)埼玉県学習状況調査の結果の概要を踏まえた意見交換 (2)2学期制の検証に係る意識調査の集計結果を踏まえた意見交換
会 議 資 料	1 所沢市学び改善プロジェクト推進事業について 2 ノーメディア・チャレンジに係る参考資料 3 所沢市学び改善プロジェクト委員会設置要綱 4 平成23年度 所沢市学び改善プロジェクト委員一覧
担 当 部 課 名	学校教育課 電話04(2998)9238  (出席者) 佐藤徳一教育長、平塚俊夫学校教育部長、諸範弘学校教育課指導 主事、関根祐一学校教育課指導主事、出居正之学校教育課指導主 事、鈴木克彦学校教育課指導主事、日下宏之学校教育課指導主事

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司 会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	<b>◆開会</b>
司 会	1 回所沢市学び改善プロジェクト委員会を開催する。はじめに教育長より挨拶申し上げる。進行は事務局の諸が担当する。
教育長	<p>震災の終息の見込みが立たない。多くの人々が、空調設備のない避難所でいまだに暮らす中、快適な環境で過ごせるということを考えなくてはならない。</p> <p>所沢市学び改善プロジェクト事業は、平成 21 年度に「学力向上に向けた 3 つの提言」をいただいて 2 年たち、教育委員会で総力をあげて取り組んできた。平成 23 年度からは、いただいた提言を第一の教育施策の柱に据えて、子どもたちの学びを改善し、そして、子どもたちがその教育を受けたことを忘れずふるさと所沢を愛せるようになって欲しい。地域、保護者・家庭、学校と、三者が手を結んで、3 つの提言を少しでも確実なものにしていこうということだ。2 年間の成果と課題、本日は一つ新しい課題も出てきているので、よりよいものにするため、提言をお願いしたい。</p> <p>この 2 年間で、第 1 の提言の中にあった本時の目標を明確にしようということはいよいよ定着してきた。学校へ行ってもほとんどの学級で本時の目標がきちんと書かれている。2 ヶ月後には全学級で目標が提示されるよう校長会にも協力を仰いでいる。</p> <p>家庭と、地域の部分について、地域でのあいさつ運動については、所沢市安全・安心な学校と地域づくり推進会議でも同じ目標で取り組んでおり、市内全域、地区ごとに進んでいる。また、清掃活動、ボランティア活動、福祉活動などにも多くの小中学生が参加し、着実に進んできている。こうしたものをより強いものにしていけたら、最終的には、子どもたちが喜び、市民が信頼できる所沢市の教育が進んでいく。ご意見をいただきたいので、よろしくをお願いしたい。</p>
	<b>◆委員長並びに副委員長の選任</b>
司 会	皆様には、時間の都合上、事前にこの委員会に関係する資料をお届けした。本日は、第 1 回なので、資料 2 の設置要綱第 3 条の 2 により委員長と副委員長の選任をお願いしたい。
委 員	委員長を赤堀先生をお願いしたい。
司 会	赤堀先生をお願いすることで良いか。
一同	承認
司 会	赤堀先生よろしくをお願いしたい。副委員長をどなたかをお願いしたい。赤堀先生、どなたかいかがか。
委員長	向陽中学校の中先生をお願いしたい。

一同	承認
司 会	よろしくお願ひしたい。座席の移動をお願ひする。
	<b>◆委員長あいさつ</b>
司 会	委員長から挨拶をお願ひしたい。
委員長	所沢の教育に関われることをうれしく思っている。地域に密着しているところが良い。地元在住であり、この学び改善プロジェクトを楽しみにしている。良い教育になるようにしたい。
	<b>◆副委員長あいさつ</b>
司 会	副委員長に挨拶をお願ひしたい。
副委員長	小学校、中学校、幼稚園等、子どもたちのために教育委員会を始め様々な形でご支援ご協力をいただいていることを感謝申し上げる。 学び改善プロジェクトで、所沢市の教育の良さを検証し、保護者、子ども、地域、教員に推し進めながら、意見をいただく中で報告させて頂き、さらに良いものにしていきたい。
司 会	これより 進行は委員長
委員長	事務局に説明を願う。
	<b>◆説明</b>
事務局	事前に配付した資料と本日ノーメディアチャレンジにかかる参考資料を小沢委員から提供していただいた。 ●本委員会について 本委員会について説明する。本委員会は、学び改善プロジェクトの要綱に則って進めさせていただく。 ●「学力向上に向けた3つの提言と取組」について 学力向上に向けた3つの提言とその取組について。厚い方の資料の2、3ページ以降に掲載している。2ページの三角形、ピラミッドの図は、平成21年7月に提言頂いたものをもとに構成して、各学校、地域などに周知、徹底してきたものである。それ以降2年間の取組をふまえて事例を説明する。 ●平成21年度、平成22年度の取組と成果について 学校については、1時間の目標の提示ということを、各学校に指導を徹底してきた。各学校でも協力頂きながら校長が指導してきた。9ページの資料は、各校長に「目標の設定例」として校長に指導してきたものである。各教科・領域ごとに、特徴的な部分を取り出して本時の目標の設定例ということで出させていただいた。昨今、学校訪問においても明確な指導目標を提示している授業が多くなってきた。

	<p>10ページは、平成22年10月～11月の研修主任研修会において、目標の設定の方法をどうしたらよいかを指導したものである。これに基づいて、各学校の校内研修で参考になっている。</p> <p>家庭については、ノーメディアチャレンジの取組をやって頂いた。11、12ページにあるシートを各家庭に配布し、年間2回チャレンジして頂いた。13ページ以降は、昨年度の前期の取組の結果である。一昨年と比べると、様々な点で向上していて意欲も向上している。16、17ページは、昨年の後期の取組で、前年と比べ、取組の内容、状況がより向上している。保護者からもよい意見が含まれている。</p> <p>地域については、19ページより山口中学校、上山口中学校、山口小学校、椿峰小学校で取り組んでいる地域ぐるみの挨拶運動のポスターを例であげさせて頂いた。このように、地域ぐるみの挨拶運動や行事への参加を行っている。</p> <p>20ページには各学校の体験活動を中心とした特色ある活動の取組をまとめた。このあとのものについては、協議の前に説明する。</p> <p>●本年度の取組について</p> <p>今回、学び改善プロジェクト推進事業という新たな事業の取組を始めた。この「所沢市学び改善プロジェクト委員会」において、さらなる提言、意見をいただきながら進めたい。具体的には、各学校にモデル校として、家庭、地域との連携及び授業改善の研究等をしていく取組の一つとしている。また、教員の資質向上に向けたビデオコンテンツの作成、小中の連携を深めるための小中連携支援員の配置、昨年同様チャレンジシートの配布、家庭用に啓発用リーフレット作成を進める。地域活動の参加の支援を進める。</p> <p>中でも、一番大きな取組は、研究モデル校を委託することである。37、38ページに本年度の取組について掲載した。小学校11校、中学校5校の全16校が、本年度の研究モデル校として研究を進めている。なお、モデル校を決定するに当たっては、校長会に依頼し、ブロックごとに検討して学校を決定した経緯がある。</p>
	<p>◆質疑応答</p>
<p>委員長</p>	<p>質疑があったらお願いしたい。協議については、今まで説明しなかった部分を使用すると言うことで事務局は良いか。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでよい。</p>
<p>委員</p>	<p>23年度の取組について、追加で説明したい。モデル校については、3年間ですべての学校が取り組む事になる。今年は、47校中16校である。たいへんな予算をかけてやって頂いている。特にお願いしたいのは、学力向上について、普段の授業に加えて、さらに手をかけていく必要があり、</p>

	<p>所沢市特有の2学期制というシステムを使って、夏季休業中における取組をより充実させることによって、フォローしたりさらに進めたり、復習の中での再確認ができるのではないかと考えている。10月の初めに成績をもらい、有効的な活用をとのことで、校長会でお願いしたところである。</p>
委員長	<p>協議の中でも、2学期制について話し合うことになっている。</p>
委員	<p>ノーメディアチャレンジに係る資料について、経緯から説明したい。</p> <p>平成19年に南ブロック（所沢市南部に位置する小学校6校、中学校3校）のアンケートの実態調査したものと、昨年度、北秋津小学校の学校保健委員会で使うということで、同じ設問でどのくらい3年間で変化があるかを集計したものである。この3年間で、メディアの接触時間は、1日20分くらい減っている。3年前は、学校にいる時間と同じくらいだったが、授業時間と同じくらいになった。千何百何十時間から、八百何十時間に下がってきた。他に注目すべきは、6、7ページだが、一日多くても5時間くらいまでにおさまっているが、その後ろに、一人ずつ出ている。これは、二極化の表れなのかもしれない。</p> <p>携帯電話の所持だが、グラフ16、17ページだが、特に女子が3年生から6年生にかけて右肩上がりになっている。男子はそれほど急激ではないが、6年生女子では、3分の2の子が所持している。中学校からの指導では遅い。フィルタリングについては、保護者にあまり関心がないという結果が出ている。法律で定めがあっても、子どもの訴えに面倒だから外したケースがある。</p> <p>他にも興味深いデータがある。学校名を伏せれば、どこで使ってもよいとのお許しを頂いている。</p>
委員長	<p>大変貴重なデータをまとめてもらった。質問がなければ、説明は終わりにして協議に移りたい。</p>
	<p><b>協議1 埼玉県学習状況調査の結果の概要を踏まえた意見交換</b></p>
委員長	<p>埼玉県学習状況調査の結果の概要を踏まえた意見交換と、2学期制の検証に係る意識調査の集計結果を踏まえた意見交換の二つの内容について協議したい。はじめに、埼玉県学習状況調査の結果の概要を説明してもらいたい。</p>
事務局	<p>結果の概要を説明する。資料25ページになる。平成22年度の調査が4月26日に実施された。大きな課題としては、25ページ下のところ、理科への関心を喚起する工夫として多様な考えを引き出して科学的思考を育て、それを表現していく活動が必要であるということと、適切な言葉を選んで考えたことを要約したり論理的に表現したりする力の育成が必要であるということだ。</p>

	<p>グラフ、29、30ページのA3横を見ていただきたい。まず、29ページは所沢市の小学5年生の調査結果の分析である。これは、箱髭図という表示の方法をとっていて、横の棒線の右側から左側の線の中に埼玉県各市町村のすべての平均が入っている。その中の箱があるところが5割の市町村が入る。真ん中の黒い丸が中央値となっている。その中で所沢市の位置が赤線で書かれている。色の見方だが、県の中で下位が赤色で、上位は青で表した。これをみると、小学校5年生については、青や緑色も多いが、下位の部分が、社会の「県の様子」、「社会的事象についての知識・理解」の観点が、非常に低いことが顕著に出ている。</p> <p>中学校については、30ページを見ると、中学校になると上位になるところがだいぶ減って、中下位、下位が増えている。とくに国語の「書くこと」が低かった。観点のところも文章を作って書く所が低かった。理科に関しては、「観察・実験の技能」以外は、すべて下位となっている。理科に弱点があることがわかった。</p>
委員長	<p>県の平均と所沢市の位置が視覚的に表現されていて、得意なところ、弱点がよくわかった。この内容で意見をいただきたい。</p> <p>教育センターとしてはどうか。</p>
委員	<p>学び改善プロジェクトの3つの提言の学力向上についてだが、1時間の学習目標の提示と考えを引き出す発問の工夫という点で、思考力・判断力・表現力を中心として、考える力を育てるために力を入れて進めている。</p>
委員長	<p>小学校と中学校とのギャップが大きいようだが。</p>
委員	<p>子ども達の学びを教師がどう見ているかということが関係する。普通の授業で身につけたものを応用していけるようになって、学んだことが自信になっていく。課題提示の仕方も、奇をてらった提示の仕方があるが、いつもできるわけではない。今までの学びをどう呼び起こすかということが大切だ。発問にしても、発問なのか、助言なのか、それとも違うものなのか区別をしないと思考する力は育たない。実際の目の前の子どもの実態をどうとらえるかから始まる。</p>
委員長	<p>小学校では上位であるが、中学校では特に理科が下がっている点についてPTAとしてはどうか。</p>
委員	<p>特に、理科が気になるが、例えば、幼児のころからの遊びなど、興味・関心を持つ、不思議だなということが少ない。メディアの部分のアンケートを見てもビデオをずっと見ていたり、ゲームなどで外遊びをしなかったり。友達同士で遊ぶというシーンが少なくなっている。ゲーム機の通信で、遊んでいるつもりであるが、不思議だなと思うことや、川の水は冷たいのか、なぜ虫に刺されるとかゆいのかといった、体験がないから興味</p>

	がなく、学習意欲につながっていないのではないかと思います。
委員長	他に意見があれば、中学校の立場からどうか。
委員	様々な要因があると思うが、数年前に教育センターで埼玉県の課題ということで、理数科離れを食い止めることを試みた。なぜかと考えていくと、体験が不足しているからだ。不足しているということは、生活の中に、なぜだろう、どうして、と疑問を沸かせるような教材にぶち当たっていないということである。豊かな社会環境のもとで育ち、子どもたちは、不自由をしていない生活をしている。おなかをすけばコンビニに行く、昆虫が見たければ標本があり、魚を食べたければすぐ手に入るといったふうに四季の感覚もない。古来日本が持っている不易の部分について体験として経験していない。そこで、全県で、科学の実験をするようなことを試みてみた。やはり、体験が少ないことが主にある。
委員長	所沢は、緑が多いと思うが、なかなか身につけていないという話だ。
委員	私は子どもが、もう働いている子、高校生、中学1年生の3人いるが、上の子へ行くほど、様々な自然体験や友達と遊ぶことが多かった。中学1年の子は、テレビづけで室内で過ごすことが多く、個人的な環境かもしれないが、近所に住む同じ年齢の子どもが少なくなっている現状があり、友達同士で外で遊ぶことや、放課後に近所の川原などに出かけるということが減っている。子どもが減っているということが影響していると考えます。
委員	中学校の理科が低くて驚いた。所沢だけでなく埼玉県全体がそうであると思うし、所沢よりも緑のないところもあるだろうし、比べるのはよくわからないが、この結果について、理科の先生同士では、話をしたのか。
事務局	この資料は、昨年度の校園長会、教頭会でも報告をし、学校や、各学校の教科の先生に研究をしてもらったりしている。
委員	今の子ども達には書く力がない。携帯電話やパソコンなどで、絵文字だけで会話をしている。大人はわからないが、子どもたち同士では意思の疎通ができてしまう。自然体験についてもゲームの中の緑では、実際の体験ではなく感触までは分からない。 日本語教育が乱れているが、「あざーす」と言えば、「ありがとう」という意味で、子ども達の間では、意思の疎通ができていても私たちは分からないということが出てくる。自然教育も大切だが、日本語教育、書くということも大切ではないか。
委員長	自然体験に加えて、実際に文章を書くことが大切ではないかという意見をいただいた。教育委員会ではどうか。
委員	私は、地元の出身だが、小学校の時、理科は大好きだった。成績が良かったということだけでなく、1時間の授業の中で、先生が、びっくりさせてく

	れる、驚かせてくれる、感動させてくれることがある。自然体験が求められているが、理屈は分かっているにもかかわらずなかなか難しい。そうすると、授業の中でいかに体験させてくれるかということを感じる。
委員長	社会教育の立場からはどうか。
委員	<p>専門外なので、気付いたことになるが、小学校の社会で、社会的事象への関心・意欲・態度が高いが、社会的事象に対する知識・理解が低いというのがよくわからない。両極端である。</p> <p>小学校から中学校に上がると、色分けが、青が緑、緑が黄に、黄が赤にと変わってしまう。学習の内容が難しくなったという一般的な傾向があるのだろうが、理科が、寒色から暖色に一気に変わるのはどうしてか気になる。中学校は、英数国など、大学までいけば基本科目だが、それほど落ちてはいない。今、大学では理科系、医薬学系の人気が高く志願者が増えているというが、これで見ると、数学・理科離れが所沢では特徴的なのではと思う。</p>
委員長	<p>結果をみると、小学校はよくできている。中学校は平均であり、下がっているわけではない。国数英はやや良くて、社理が低い。これにはいろいろな要因があり、塾とかの影響もあるかもしれない。日本人はとにかく、平均より劣ったものに目がいく。でこぼこの劣ったところをあげてみんな平均になろうとする。いいところをもっと伸ばしたらということも大切だ。英数国を伸びるならもっと伸ばして、自信をもたせたらどうか。全部ができるようになるということは、なかなか難しい。そういう点で考えれば、そんなに落ち込んでいるわけではない。3年間取り組むいろいろな形での活動の中で、様々な活動が学力につながっているということが大切だ。挨拶はよくできましたが勉強はできませんでした、というわけにはいかないので、実績として、いろいろな活動との関連で評価できるようにしていければよいと個人的に考える。ぜひ、先生方への学力の取組への示唆としてデータをを用いて説明してほしい。</p>
	<b>協議2 2学期制の検証に係る意識調査の結果の概要を踏まえた意見交換</b>
委員長	「2学期制の検証に係る意識調査の結果の概要を踏まえた意見交換」の協議に入る。事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>資料の31ページからになる。まず、本調査の目的は、「市内の小・中学校の児童・生徒、教職員及び保護者に対し、教育活動の一層の充実を図るために2学期制実施に関する意識調査を実施し、今後の施策の立案に資する資料を得ることを目的とする」ことである。</p> <p>今回の調査結果だが、次のページをご覧いただきたい。32ページが教職員の調査結果の内容、33ページ上が児童・生徒、下が学校、次のペー</p>

	<p>ジが保護者の調査結果となっている。</p> <p>まず、教職員の調査については、授業時数の増加や、評価・評定について、肯定的な意見と、否定的な意見がほぼ半々であった。しかし、体験的な学習や長期休業中の学習指導及び2学期制の継続については、肯定的な意見より否定的な意見が、1割から2割程度上回っていた。主な意見としては、年間の授業時数の少ない教科の教職員からは、十分な資料をもとに評定をつけることができたなど、肯定的な意見をいただいている。しかし、長期休業前の評定返却や、学期と学期の間の気持ちの切り替えなどには否定的な意見もあった。</p> <p>また、保護者からは、授業時数の増加や体験的な取組及び夏期休業中の対応について、肯定的な意見を多くいただいた。しかし、評定の返却時期や2学期制の継続については、肯定的な意見より、否定的な意見の方が2割程度上回っていた。主なご意見としては、指導時数の増加や、長期休業直前までの給食実施などに肯定的な意見をいただいている。しかし、長期休業前の評定返却や中学校の定期テスト試験範囲の増加などについては、否定的な意見をいただいている。</p> <p>児童・生徒については、ほとんどの児童・生徒が2学期制の下で育っているので、2学期制の良さを生かした学校生活について調査している結果は、8割以上の児童・生徒が現在の学校生活を肯定的に捉えている。</p> <p>学校へは、2学期制の導入の具体的な成果について調査した。調査結果から各学校においては、2学期制の良さを生かしながら特色ある学校づくりを推進しているようである。また、新教育課程に対応した更なる授業時数の確保や、学期と学期の間の日数の不足などについての意見があった。</p> <p>2学期制は、学校週5日制や総合的な学習の時間などに対応する学習環境を整備するために導入されたが、今回の意識踏査からも成果が上がっているものと受け止めている。しかし、長期休業前の通知表返却や、中学校の定期テスト開催についての意見もいただいております、今後、研究すべきところもあると考えている。</p>
委員長	<p>この31～33ページについて見ると分かるが、教職員504名、児童・生徒792名、保護者744名、学校数47校と、かなり大規模な調査に基づいた2学期制の検証結果である。2学期制というのは、何月から何月まで、そして、休業日はどこまでか教えて欲しい。</p>
事務局	<p>2学期制は、4, 5, 6, 7月、夏休みを挟んで、9, 10月半ばまでが1学期で、中3日間おいて、10月中旬から3月までが2学期である。</p>
委員長	<p>大学では、8月の最初までを前期にして、休業にするが、8月の夏休みを挟んで1学期とする。二つの時期については、時間数の確保のためか。</p>

事務局	はじめは、授業時数の確保が大きなポイントであった。それから、総合的な学習の時間が導入された関係で、短い時間で子どもたちが学習するには不都合があり、夏休みを含めて、子どもたちが学習を進めることができ、長いスパンでの研究ができるということで導入した経緯がある。
委員長	この評価についてはいろいろな形で注目されているし、教育委員会でもある程度の統一した見解を出したいということで議題にしたと聞いている。意見を賜りたい。
委員	専門外で、初歩的な質問だが、長期休業前に、「あゆみ」、「通知表」がもらえると、長期休業中の学習の目安として活用できるのではないかと、いう保護者の意見があるが、それに対して、所沢らしきとすると、2学期制を活用した夏期休業中の取組には、大きな課題、役割があうと思うが、今後、どんな取組が期待されるか。どうしているのか。
委員長	夏期休業中の取組については何かあるか。
事務局	現時点においても夏期休業に入ってからすぐ、あるいは、夏期休業前に、2者面談、3者面談を設けている学校が多数あり、そこで各児童・生徒に夏休みの学習指導等を徹底して、夏休みの中で学力向上をめざすよう進めている。また夏休みに入ってからすぐ、サマースクール等の学習支援や補習学習の時間を設定しているところもある。
委員	児童・生徒の8割がたは肯定的に受け止めていることで成果を上げている、滑り出しとしてはいいと思う。ただ、始めたばかりなので何年か継続していく中で、また、慣れの問題もあると思うので、2学期制がなじんでくれば、使い方、対応がとれると思う。
委員長	児童・生徒の意識調査はあからさまに肯定的だが。
事務局	児童・生徒の4つの観点と教職員のそれとを比べると分かるが、従業日数が増えたことは、もともとはわかりやすい授業を作っていくために授業時数を増やしたので、わかりやすくなったかとなり、「自然体験や職場体験学習などの体験的な学習に、取り組みやすくなったことについて、よかったと思いますか。」が、「学校では、いろいろ体験できますか」となり、観点は合致しているが、子どもたち自身は、3学期制も2学期制も関係ないので、学校で一生懸命学習して素直に語ったのが、この結果ではないのか。
委員長	保護者や教職員は、3学期制と比べて2学期制の取組はどうかと比べているから半々くらいであるということか。
事務局	保護者も、大人の頭としては3学期制と2学期制を比べてという観点があるが、児童・生徒に関しては2学期、3学期を比較していない。

委員長	児童・生徒については、今の授業のやり方について、肯定的であるという回答で、教職員、保護者は、それほど3学期制が良いという回答ではないといえる。
委員	私の子どもも2学期制しか知らないが、先生から2学期制の利点を聞いて理解して、2学期制になったことが分かる方がいいと思う。私たちは、3学期制に慣れているので、夏休みを機に切り替えて、また9月に始まるんだということからすると、子どもの気持ちの切り替えを考えると10月の3日間というのは難しい。ただ、その辺が説明されると、保護者もその立場で子どもに語りかけていけるのでいいと思う。
委員長	その趣旨について、保護者に説明した方が良いという意見である。
委員	授業時数の確保という点では、2学期制はたいへん有効である。夏休み前の直前まで給食を出せるということで、短縮授業が少なくなる効果がある。一昨年のインフルエンザの学級閉鎖、学年、学校閉鎖にも対応できた。 中学生の保護者としても、夏期休業前に通知表が出せないという件について、私の子どもが通う学校では、夏休み前に個人面談があり、夏休み中の過ごし方等についての先生との話し合いがあり、どう過ごすかという課題をもらって夏休みに入るとい学校工夫がある。
委員長	2学期制にいろいろな評価があるが、教育委員会としての考え方があれば出して欲しい。
事務局	2学期制と3学期制とそれぞれに、メリットもデメリットもあるが、学習指導要領が改訂されて、授業時数の確保が大きいというのが一番に現実的な問題である。それを基盤にして、授業時数の確保の上に立って、長いスパンでの指導と評価、総合的な学習、体験学習、様々なものが成り立ってくる。保護者からも、給食も2学期制にして休み前ぎりぎりまでであるのでありがたいという声がある。また、授業も短縮にしないで授業時数を確保しやすいというメリットがある。また、ここで、土曜日の授業や、夏休み等の短縮ということが話題になっているが、こうした時期であるから、夏休みを短縮して授業をするというのも暑さや節電対策から、土曜日についても、さまざまな地域での活動もあり難しい面もある。教育委員会としては、2学期制の良さを生かしながら、土曜日の授業を含めて、今までと円滑に接続できるよう考えているが、それぞれ課題があるので、委員の意見を参考にしたい。
事務局	今日は委員の皆さんの意見がたくさん出た方がいいと考えているが、一番大切なのは、園、小、中学校の管理職が丁寧に説明を繰り返すことと常々考えている。この2年間、校長会、教頭会で、2学期制の継続について、まずは、児童、生徒に、そして、保護者や地域の方に丁寧に説明をする必

	<p>要があると言ってきた。所沢中で3年3ヶ月校長をやらせてもらったときは、まず、入学式に、進路決定期に、卒業期にというふうに丁寧に説明した。3年3ヶ月の間、このことについてのご意見は全くなかった。丁寧に説明し、子どもも保護者も地域の方にも分かって頂くこと、学び改善プロジェクト事業も単独で成り立っているのではなく、総合力となって、子どもたちに力がつけばいいと考える。一つは、1万7千人の延べ児童・生徒が、社会貢献体験をしていることである。今年は2万回をめざしているが、これらが、体に障害のある方も含めて心を丈夫にしていくことになる。保護者や地域の方から、心を丈夫にしてもらうことによって学習に対する意欲が増すというふうに、総合力をつける。</p> <p>学び改善プロジェクトも2学期制もチャレンジ学習のステップアップ調査も全部絡んで、総合力であるというように説明すれば、ご理解頂けるのではと考えている。</p>
委員長	まだ時間があるので、意見をいただきたい。
委員	<p>保護者から否定的な意見があるが、結論から言うと、進路指導というか、中3の夏休み前に通知表がないのが不安ということが、PTA連合会の市長と語る会とか様々な場面で話題になり、そこへ収れんされていくようだ。中3の娘がいるので気持ちがよく分かるが、どちらかというところ2学期制か3学期制かという議論よりは、土曜日の授業をどう考えたらよいかの方が焦点としては重要かと考える。たとえば、下の子が今、小学生で、長期休業を除いて、1年間で約40週あり、隔週で土曜日授業を実施したとすると20週出ることになる。しかし、今の状況でも、運動会だったり、授業参観だったりして、結果的に10週くらい出ているのではないかと。以前は振替をしていたが、指導要領の改訂で振替がなくなり、また授業をするというと、今でも月に1回強、出ているような状況があり、今後、なし崩し的に増加することが心配である。</p>
委員長	<p>学習指導要領の改訂による授業時数の増加による土曜参観についての考えは、教育委員会としての考えがあるか。もうひとつは、埼玉県内における2学期制など、授業時数増への対応の他の例を知りたい。</p>
事務局	<p>所沢市としては、土曜日の授業について、公開を原則として実施することをお願いしている。開校記念日等も振替を設けずに実施しても良いことにしている。管理規則を変えない中で、学校で工夫して授業時数を確保している。</p>
委員長	<p>教育委員会としては、市内統一なのか。それとも学校単位でできるのか。</p>
事務局	<p>教育課程の編成は学校に権限があり、管理規則に明記されている。教育委員会とすると、方向性について示し、その中で、土曜日の活用、開校記</p>

	<p>念日、県民の日、長期休業日等について、学校公開という原則で、無理のない範囲で学校で検討して欲しいと言っている。限度として5回の範囲内と言っている。5回の範囲内だと、各校3回弱くらい土曜参観をやっているし、夏休み後、早く始まっている学校もあるので、無理のない範囲と考えている。</p>
委員長	<p>今年のような暑さや、計画停電などを配慮しなくても平気か。前期の試験を早くやって、土曜日の授業をやっていかないと停電になったら大変と、大学では対応している。</p>
事務局	<p>難しいところだが、土曜日の授業を含めた教育課程の編成は震災の前の検討で、確かにあまり想定されていない部分もあったが、温暖化で夏も暑くなっているので、学校で夏休みに大幅に授業を入れる、休みを短縮して授業を入れることは考えないのが現状で、月曜日から金曜日の中で増えていく授業を上乗せするとか、今まで通り、土曜日を活用したりしている。エアコンは一部にしか入っていないが、扇風機等を全校に入れて対応している。</p>
委員	<p>ぜひ、エアコンを入れて頂きたい。</p> <p>中学校も来年から新学習指導要領の実施で移行期間であるが、来年度からと同じ形で進めている。昨年度まで年間980時間が決められた時間数だが、2学期制でやっていると軽くクリアできる。来年度からは、1015時間が要求される。プラス35時間、年間35週、週1時間増やす必要がある。そういう環境の中で、試行してみると、年間で3日くらい増やせばこの時間数をクリアできる。3学期制だと、たぶん1週間かかるのではないか。先生方の振替は自由がきくが、生徒の振替はない。休みが減ったと思っている生徒もいるようだが。</p> <p>進路指導に関係してだが、すでに進路指導は始まっているが、今のところ支障はない。夏休み用の成績だが期末を見積もって出しているので、学校ごとに努力して子どもたちの進路には問題はない。はたから見れば成績表だけが子どもたちのデータのすべてであるとお考えのようだが、そんなことはなく、学校が出す書類、成績については校長の職印がある正確な通知表であり、個人個人に配慮した成績を残している。そういった中で考えると、各中学校を見ると35時間増えた分については入っている。1週間で29時間にする学校もあるが、すべてやらなくても済むという余力があり、2学期制での新しい指導要領への移行がスムーズである。</p>
委員長	<p>現在、新しい指導要領になっている小学校はどうか。</p>
委員	<p>学期末の短縮授業が必要なくなった。小1では授業時数が850時間だが、909時間なので59時間余裕時間がとれている。2学期制は時間数</p>

	<p>がきちんととれるメリットがある。</p> <p>しかし、保護者アンケートなどでそう思わないというのがあったが、今日の校長会で、長期休業前に保護者の方に、例えば、子どもたちの今までの学校生活の様子であるとか、歩みの状況であるとかを何らかの形で伝えているところが多いのに、保護者には実感として伝わっていなかったということは、教育長の言うとおりの私たちの説明不足なのかもしれない。きちんと説明しながら保護者に話し、次の手立てを示していく。うちの学校では個人面談をして次の週には「はげみ学習」といって、マイナスのイメージがあるが、ここを伸ばしたい子もいるわけで、その時間を確保している。</p>
委員長	スムーズに時間を確保しながら進めている。
委員	<p>2学期制が始まってから見てきて、だんだんと行事の割り振りが、3学期制とは違った2学期制だからこそ入る行事が、各学校の工夫のもとに定着していると考えている。7月は暑いが、この時期に修学旅行が入ったりしている。</p> <p>評価の話題になったとき、評価は、その場面場面でしっかりみとって伸ばす、点数をつけて結果を渡すことだけがそうではない。親の目として定期テストがあって3回通知表をもらえるとうれしいみたいなことがあったり、子どもも定期テストがないと勉強しないという意識があるが、日常の勉強を子どもたちに評価して返すという繰り返しをきめ細かく各学校がやっていることをアピールしていくことがさらに必要だ。</p> <p>他市から戻ってきて、学び改善プロジェクトの3つの提言の中の家庭の役割の「ノーメディアチャレンジ」の取組がすばらしい。子どもたちは、みんな得意なので、使わせないということを経験させることがすばらしい。「早寝、早起き、朝ごはん」など、家庭で取り組んで、基本的な生活習慣が身に付いていないと、学力向上はしないと思う。中学校だと、「時を守り、場を浄め、礼を尽くす」のように、当たり前のことをやるが、基本的な生活習慣が身に付いている子どもたちを育てていって、親や教師が認めてほめることが大切だ。認め、ほめる場面をたくさん増やし、その場면을体験、地域との関わりで体験をしたりいろんな関わりをもって、認めたりほめたりすることが増えてくると、子どもたちが意欲的に物事に取り組んで、例えばテストで空欄のままにせず、一生懸命書くようになる。その中で思考・判断があり、学力向上につながると考える。</p>
委員長	<p>まとめてもらった感じである。教育長の言う通り、趣旨を理解して、トータルとしての学び改善プロジェクトと思えば、委員をさせてもらっているうれしさがこれからも続くと思う。</p> <p>今日の協議はこれで終わりにしたい。事務局より、連絡事項をお願いし</p>

	たい。
	<b>◆連絡</b>
事務局	<p>少ない時間であったが、協議頂きありがたい。</p> <p>第2回の委員会は、2月中旬を開催予定としている。内容は、16校のモデル校の研究発表会に続いて、協議を進める予定である。</p> <p>次回までの時間が長いので、今後、学び改善プロジェクトについては、メール、郵便等で資料を送らせてもらったり、意見をいただいたり、アンケートにご協力いただくなりして、協議をつめさせて頂く。集まることは2回しかないが、それをうめる形で、協議をお願いしたい。</p>
	<b>◆閉会</b>
委員長	以上で、第1回学び改善プロジェクト委員会を終わる。
事務局	<p>ありがとうございました。連絡にあった通り、メール、ファックス、電話等でのやりとりになるが、できるだけ皆様の声が届くようまとめて意見を伺うということを繰り返していきたい。それぞれ代表の立場でお近くの方とこの問題をよく話して頂いて、例えば、子育てに入ろうとする方、あるいは、小・中学生の保護者、子育てを卒業された方などいろいろな方のご意見を近所から寄せて頂いて、自分の意見として頂けると、より多くの方の意見が入って、事務局もまとめやすくなるので、それぞれの立場から意見を寄せてくれるようお願いしたい。</p>